

平成20年度中間評価結果（平成20年12月）

〔研究開発課題名〕 超小型汎用コミュニケーション端末のための基盤技術の研究開発

〔委託機関名〕 株式会社横須賀テレコムリサーチパーク

| 項目       | 評価<br>ランク | 所 見   | 再評価<br>ランク | 再 所 見        |
|----------|-----------|---|------------|--------------|
| 総合<br>所見 | A         | <p>（技術）<br/>                     すべてのテーマに関して、目標よりもすぐれた成果を達成しているとともに、外部状況の変化への適切で迅速な対応を行っていることが大きく評価できる。事業推進および社会への本事業の貢献と還元という観点からも、オープンソースにすべき部分とクローズドにすべき部分を戦略的に分析し、実施していると判断する。さらに、すでに、我が国最大の課題である国際的競争力の向上という観点からは、海外企業とのアライアンスを軸に、戦略的な対応と活動が展開されており、高く評価することができる。<br/>                     さらに、当初の研究計画を前倒して実施しているところも多数見受けられ、すぐれたプロジェクト管理が行われていると考える。さらに、当初の計画以上の成果が出る可能性が、中間報告では、示唆されており、今後の活動に期待したい。<br/>                     また本研究開発を推進するうえで妥当な研究体制であり、研究成果とともに人材育成への高い貢献度が期待される。<br/>                     本研究開発は産学共同のあるべき体制として、NICTからも対外的にアピールすべきであると考える。</p>  |            | <p>（技術）</p>  |
|          |           | <p>（事業化）<br/>                     本研究開発の主要成果であるT-Engineを利用した超小型RFIDマルチプロトコルリーダー/ライタは、ユビキタス情報社会のコアとなる日本発の技術であり、携帯端末のソフトウェアプラットフォームとなる。このため、ビジネス上の波及効果の大きいことから、早期の国際的な事業展開が望まれる。<br/>                     その推進には、坂村健代表を中心に組織的な対応がとられており、研究開発遂行ではまったく問題なくグローバルレベルでの優位性は確保できると判断するが、急速に、開発要員を増強したときの経営体制、海外拠点を増やした場合や製造販売を拡大した場合のユーザーテクノロジー社における事業運営体制、品質管理体制に関しては、さらに具体化が必要である。<br/>                     一方で、引き続き、国内ユーザーの獲得にも注力されることを期待したい。<br/>                     また、特許等の知的財産権の確保は、海外展開においては、基本特許のみならず周辺特許もおさえておくことが必須であり、出願、権利化を急ぐ必要がある。<br/>                     収益納付の期待度に関しては、受託者は幅広い海外展開をしており、有効な結果が得られると期待している。特にライセンス許諾契約が成功すれば、ライセンス料率によるが、委託費を上回る納付が期待できると判断する。</p> |            | <p>（事業化）</p> |

（注）総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。